人とふれあい、見聞広げ

多感な高校生にとって、教育（修学）旅行は学生時代の一大イベントといえる。楽しみでもあり、また不安でもある。非日常の場に身を置き、その土地ならではのものに触れ、見て、人と接することで視野が広がることもある。ここでは充実した教育（修学）旅行を実施する４校の取り組みをレポートする。

とわの森三愛高等学校

デンマークなど9泊10日　18年3月14～23日実施

久保木崇教頭

ハイレベルの現場研修　国際感覚ある農業人に

北海道江別市の学校法人酪農学園は、黒澤酉蔵が酪農民教育を行うため1933年に創設。義塾から始め、それを高等学校に発展させて、現在は大学・大学院も併せ持つ総合学園となっている。

その高等学校である、とわの森三愛高等学校（西田丈夫校長）は、「神を愛し、人を愛し、土を愛す」という三愛精神を教育の柱にして、国際化社会を担うにふさわしい良識ある社会人、実践的な農業人の養成を目的とする酪農を専門とするアグリクリエイト科機農コースと、農との関連を併せ学ぶ普通科4コースを設置している。生徒数は通信制の普通科を含めて男女825人。

酪農学園の原点と言えるのが、アグリクリエイト科「機農コース」だ。機農は、創立者・黒澤酉蔵の言葉「機を知るは、農の始めにして終わりなり」を元にする。農業は機会を生かして必要な作業を見極めて行うことが大切という意味である。生徒は男子だけでなく、女子が2割強を占める。

とわの森三愛高等学校では、研修旅行を2年次に実施している。行き先はコースごとに異なり、機農コースは2017年度にデンマーク、ドイツ、イタリアの3カ国を訪れた。ほか普通科の行き先は「獣医進学・アドバンスコース」が沖縄、「総合進学コース」が台湾、「トップアスリート健康コース」が関東、「フードクリエイトコース」が韓国だった。

機農コースの研修旅行は3月14日から23日までの9泊10日で行われた。2年生の男子29人、女子4人、計33人が参加した。3カ国の中でも研修先のメインとなったのがデンマークだ。久保木崇教頭は「酪農を中心としたデンマーク復興の取り組みを指導したニコライ・グルンドビー牧師の思想が三愛精神のルーツ。その精神を理解すると同時に、酪農王国デンマークの先進的な酪農、畜産を学んでくることを目指した」と語る。

研修旅行の初日、新千歳空港から飛び立ち、いくつかの航空機を乗り継いでデンマークの首都コペンハーゲンに到着。2日目はコペンハーゲン市内の見学。徒歩で「人魚姫の像」や「アマリエンボー宮殿」「市庁舎（アンデルセン像）」など観光名所を見て回った。

3日目は、コペンハーゲン郊外を見学した後、ロスキレにある農機販売店（ニューホランド）とデンマーク食肉技術学校、在日デンマーク大使館や現地の研究機関SEGES（農業コンサルティング団体）の協力を得て、リーン生産方式（トヨタのカイゼン）を長年実践している酪農家で研修。デンマーク食肉技術学校では講義を聞いた。肉加工の分野でも発展を続けてきた欧州農業。目の前で展開される加工授業は、効率的・合理的でありつつ、と殺された家畜は余すところなく利用できるように加工され、動物福祉の視点や命を無駄しない、命の大切さについての深い理解に感銘を受けた。

4日目の午前は、オステッドの酪農家に移動し、有機農業を基本に環境に優しく、人にも優しい農業を実践しているとの経営者の言葉に生徒たちも感激していた。その酪農家は自家生産した牛乳を販売しており、飲んだ生徒は、「こんなにおいしい牛乳ができるのは、良い土から、草や飼料が採れ、それを食べる良い牛がいるからだ」と納得していた。

午後は航空機でドイツへ。5日目はミュンヘンやパッサウの街並みを見学した。

6日目はロットハルミュンスターの高等農業学校を訪問し、農場実習の他、同校生徒との交流も行った。互いの国、地域、経営方法などの農業に関して情報交換を行い、刺激を受けた。ホーフキルヒエのバイオガス設備で研修を実施。ティーフェンバッハの農場レストランの研修では、6次化やグリーンツーリズムの講義を真剣に聞いた。

7日目はフトゥルムの農機展示場（クラース）、有機農業教育・研修センターで研修。その後、空路でイタリアの首都ローマへ。

8日目にローマ市内を見学し「コロッセオ」や「トレビの泉」「スペイン広場」「サンピエトロ大聖堂」「バチカン美術館」などの観光名所を見て周り、イタリアの食文化についても学んだ。9日目はローマから帰国の途に就いた。

今回の研修旅行の成果について久保木教頭は、「ハイレベルの酪農業・畜産業の実践に触れる機会を共有できた生徒たちの学びへのモチベーションが高まっている。国際感覚をもった農業実践に触れて、質の高さを追求するヒントを各々が得てきたことが3年目の学びと将来に生きる」と話す。

2018年度以降の研修旅行について久保木教頭は「これまでの研修旅行で生徒たちが残してくれた感想や意見を生かして、プログラムをさらに充実させることが重要だ。例えば、学校交流に関しても、交流内容をもっと深めていきたい」と考えている。

海外で実施する研修旅行であるので、食文化の違いなどによる生徒の健康管理や、国際情勢に合わせた危機管理体制なども考えて、行き先やプログラム内容を決めていくという。

デンマークの酪農家で研修

農場レストランでの研修

現地学生と交流

スペイン広場で記念撮影

九里学園高等学校

オーストラリアなど8泊10日　17年11月実施

井澤治教頭

私立学校の特性生かし　他校にない体験活動を

山形県米沢市の中心部、上杉城址公園の至近距離にある学校法人・九里（くのり）学園高等学校（九里廣志校長、生徒数男女共学で518人）は1901年（明治34年）に設立。県内で最も古い私立学校で「九里裁縫女学校」として開校し、今年で117年を迎える。

教育スローガンは「礼・譲・協同和楽」。「礼」は人間の尊厳を信じ、その高貴さにふさわしく行為をすること。「譲」は自らの持てる力を発揮して、愛する世の人々に捧げること。「協同和楽」は互いに協力し合い一人一人の生活が楽しく充実したものにすることだ。

15年度からスーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校に文部科学省から指定され、世界人として生きるための教育を意欲的に行っている。教育方針である「豊かな人間性の育成」を基盤に、男女を越えた人間性の開発と、男性・女性として各々のアイデンティティを育てる教育を実践し、男女が一緒になって「素晴らしい人生を、協力して築き上げてゆく、元気な学校」を生徒とともに目指している。

学科は普通科のみで、その中に二つのコースを設置する。一つは、より幅の広い進路に対応した「ユニバーサルコース」。もう一つが、進学により特化した「プログレスコース」だ。

同校では修学旅行を「研修旅行」と呼んでおり、2年時の11月に実施する。以前は全員で京都、広島、奈良に行っていたが、現在は生徒の希望を聞いて行き先を決定している。教員と生徒が一緒になって事前学習で勉強しながら企画内容の細部を検討するため手間と時間がかかるが、生徒の自主性を重んじている。

昨年の行き先は、海外のハワイ、オーストラリアと国内の東京・京都・奈良・沖縄。海外は8泊10日、国内は4泊5日を基本としている。

ユニバーサルコースではオーストラリア研修に28人、国内研修に170人が参加した。

オーストラリア研修の内容は、平和学習と学校間交流がメイン。日本とオーストラリアが太平洋戦争時に交戦した歴史を知らない生徒が多い。当時の収容所を見学し、慰霊碑への献花と清掃活動なども実施し、その事実を生徒に理解させる。

国内研修は、東京では日本の芸術、文化を学ぶことを目的として、昼は美術館や博物館を鑑賞し、夜はミュージカルやオーケストラを観劇した。沖縄では、歴史を学ぶことを目的に嘉手納基地の問題点を現地の人々との交流を通して探したほか、山形の塔で清掃活動や献花を行った。

プログレスコースは、課題研究の場としてハワイを選んだ。昨年は11人が参加した。

ハワイでは、環境などの保全運動のグループを通じて紹介されたホームステイで、現地の人たちの暮らしを体験した。パールハーバーにある戦争歴史記念館などの戦争遺構も見学した。

研修旅行について井澤治教頭は「私立学校という特性を最大限に生かし、他の高校ではやっていないことを積極的に体験する内容となっている。特に、高校生が平和の尊さを学ぶ意義は大きいと考え、平和学習に力を入れている」と語る。

事後学習は、国内研修では生徒が班ごとにレポートを提出し、それをもとに壁新聞を作って学内に展示した。学びの度合いのリサーチと情報の共有化を図るのが目的だ。

海外研修では、個別にレポートを提出。さらに、各県のスーパーグローバルハイスクール指定校が集まる大会が仙台で開かれ、ここで研修旅行の成果を発表した。

前々校長が青少年の国際交流の先駆者ということもあり、青少年の人材育成には40年前から取り組んでいる。高校生レベルで国際交流を図る外務省のプロジェクトに同校も加わっており、生徒をベトナムに派遣したり、インドの高校生50人を受け入れたりしている。

「最近の若者は内向きだと言われているが、これからは国境なしで若者が就職することを考えた場合、世界で活躍できる人材の育成が急務だ。若い時にどれだけ多くの体験をさせることができるかが問われている。広い視野を育成するためには高校の多感期に1回ぐらい海外に出て日本を見てもらうという経験は後々にプラスになってくる」と井澤教頭は考えている。

オーストラリア研修

国内研修の芸術文化体験

国内研修の日本文化体験

ハワイ研修

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

お手軽な時代劇の扮装体験　時代劇の扮装をして映画村の江戸の町を歩いてみませんか。メイクなし、かつらも省いた着物の着付けだけのお手軽プランなら、短時間で「変身」して時代劇の世界をお楽しみいただけます。
【扮装種類】町娘・振袖若衆・武家内儀・千姫・若侍・遠山奉行・町人・浪人・坂本龍馬・新選組隊士・忍者

清水焼絵付け体験
【染付】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。
【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

清水焼絵付け体験【染付】
お手軽な時代劇の扮装体験
清水焼絵付け体験【京焼】
京扇子・京うちわ手描き体験

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで！
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル✆0570-064349　お問い合わせ✆075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～7、9月の平日と10、11月毎日）
9:00～18:00（3～7、9月の土・日・祝 と8月毎日）
9:30～16:30（12～2月の平日）
9:30～17:00（12～2月の土・日・祝）
休村日 / 2019 年1月21日～25 日

年間4500校以上（平成28年度）にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

（一社）長野県観光機構は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。
資料請求・お問合せは下記まで！
皆様のご来県をお待ちしております。

お問合せ・資料請求先
（一社）長野県観光機構　担当:吉池・北沢
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3233
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁 1階